

令和3年度 教養教育科目 シラバス

科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	生活に関わる様々な経済の仕組みを理解し、基礎的な経済学の修得を目指すことにより、経済問題について自ら考えることができるようにする。これにより学生が自身が社会に貢献することの意義を知り、また自らのライフ・イベントに付随する経済問題を理解しその対処を考え、より良い選択が行えるようになることを目的とする。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義を学習し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、対処できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	経済の問題と聞くと難しいと身構えてしまうことが多い。しかし、日々の生活において金銭を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種である。また、自身が収入の獲得する様々な手法（働いて給与を得る、事業を営む、あるいは利子や家賃収入を得るなど）や、現金で買うかクレジットカードを利用するかについても、経済の問題である。経済社会における価値の創造から自らの貯蓄の手法に至る、収入と支出に関わる身近な問題への対処と選択を学び、「経済」について理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに一オリエンテーション ② 経済の指標の取り方 ③ 価値と市場について—GDPの基礎概念 ④ 生産活動と所得 —「分け前」の獲得 ⑤ 誰がお金を使ったか？—消費と企業活動 ⑥ 市場の均衡と景気 ⑦ 資産とは何か—ポートフォリオ・セレクション ⑧ お金の「価格」とは何か ⑨ 消費者の満足とは—効用水準 ⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値） ⑪ 何を買うのか？—消費の選択 ⑫ 満場一致が望ましい—パレートの意味での効率性 ⑬ 企業活動—利潤と費用 ⑭ クレジットカードの意味—支出と所得と時間の関係 ⑮ 異時点間の消費選択—住宅ローンに代表される借り入れの問題 ⑯ 定期試験—記述式 		
予復習等	【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】 表示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度30%、定期試験70%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨むこと。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する。		
参考書	適宜、適宜紹介するが、購入を必要とするものではない。		

科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができるようになる。その上で福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどういうものか、学生が自分なりにイメージすることができる。そして最終的には北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、学生自身が自分なりに考えることができることを目的とします。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】 近年、日本でもスウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が、若い女性を中心に注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。 また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支える国の姿＝福祉国家について楽しく学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。 本講義は実物や映像を見ながら、ときに調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。話を聞くだけではなく、自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 日本の中の北欧を探す ② 北欧デザインから幸せの支援を考える ③ 映像で見る福祉国家の生活 ④ 誰もが安心して暮らせる普遍主義 ⑤ 福祉の先進地域・北欧5カ国を知る ⑥ スウェーデン語を学ぶ ⑦ 本当の教育を考える ⑧ 現場重視の福祉制度 ⑨ 最低限の生活費を確保する ⑩ 家事や育児を分担する家庭と社会 ⑪ 話し合いで心を癒やす精神科治療 ⑫ 北欧のいいなと思うところ ⑬ 人を助ける経済のしくみ ⑭ 社会をコントロールする政治の力 ⑮ 日本で幸せを支える福祉を考える ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】 授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	現代社会と法律 Modern Society and the Law	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生デ（1年後期）／英文・国文・食栄（2年後期）	科目区分	講義
担当者	近藤 真	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義では、法とは何か、憲法とは何か、を認識する。取り上げられた題材を通して、法律がどんな歴史的社会的意味を持っているのかを認識し、よりよい社会を目指した法の現代的課題を認識する。それらによって主権者としての市民的教養と課題意識を獲得する。		
授業概要	現代社会は当然ながら法律の社会でもある。人々は法の支配のもとにあって、初めて安全と安心を確保できる。では、法律とは一体何であろう。本講義では、法とは何か、憲法とは何か、の根本にさかのぼりながら、現代社会にとって法律がどんな意味を持っているのかを考え、憲法の社会権を中心に、現代社会における法の到達点と課題を究明する。		
授業計画	① 入門 ② 法とは何か ③ 憲法と法律 ④ ビデオ「NZの環境法」 ⑤ 環境権とは何か ⑥ 四大公害訴訟の法的意義 ⑦ 岐阜の環境問題と法律 ⑧ ビデオ「岐阜の教育問題」 ⑨ 教育権とは何か ⑩ 国家と教育 ⑪ 能力主義と教育 ⑫ ビデオ「労働問題」 ⑬ 労働権とは何か ⑭ 労働時間短縮と文化的生存権 ⑮ 定期試験 ⑯		
予復習等	【予習】3冊の本を読み、読書感想文を書く。 【復習】3回のビデオ感想文を書く。		
評価方法	テスト70%、レポート30%、出席5%		
履修条件	なし		
教科書	法律文化社『憲法とそれぞれの人権』、三省堂『模範小六法』		
参考書	授業の中で示す		

科目名	課題創造演習 Problem Finding and Program Creating	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1・2年前期）	科目区分	演習
担当者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、これまでの正しさの論理をめぐり、分野の垣根を超えながら知識を共有し、それを発展的に展開していく能力を養う。具体的には、以下の3つを身につけることを目的とする。 1. 変化する社会に潜む課題の発見 2. 分野を横断した議論の方法 3. 正解の無い問いに対処する方法		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 これまで、与えられた課題を解決する力を備えた人材が重宝されてきた。そのため、解決策を学ぶことや、そのためのスキルを覚えることが、大切だと思われてきた。しかし、近年、社会情勢はこれまで以上の加速度で変化し、さらに多様化している。そのため、これまでで正しいと思われてきた論理にて意思決定をしていては、人々の幸福につながらないケースが発生すると考えられる。本演習では、前半で議論・促進・抽出の方法を学んだのち、受講者によるグループワークやディスカッションを行い、正解の無い問いに対する対処方法および表現方法を学ぶ。		
授業計画	① ガイダンス ② 多様な社会課題 ③ 議論・促進・抽出の方法 ④ ディスカッション（課題抽出） ⑤ 文献調査 ⑥ ディスカッション（課題抽出） ⑦ ディスカッション（調査計画） ⑧ 現地調査 ⑨ 現地調査 ⑩ 調査結果発表 ⑪ ディスカッション(表現方法) ⑫ 制作（Adobe、パワーポイント） ⑬ 制作（作業） ⑭ 制作（作業） ⑮ 成果発表		
予復習等	【予習】本演習の第一回目までに、参考書を一読しておくこと。 参考書にはマンガ版を示しましたが、同様のタイトルの新書版でも良い。 【復習】授業の内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度50%、課題50%		
履修条件	集中講義であるため、開講時期に注意すること。現地調査など、学外へ移動することがある。履修希望者多数の場合は、抽選をおこなうことがある。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『マンガと図解でわかる 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』/山口周 / 出版：光文社		

科目名	生物学 Biology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	三宅 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	生物学（生命科学）は急速に研究が進んでおり、医療分野への応用や自然環境の保全等、私たちの生活に深く関わる分野である。本授業では、生物学の基礎的な知識を理解し、生物学をめぐる諸問題に対し、どのように考え行動していくかを習得することを目的とする。今後、生物学の知見や技術が応用される社会を想像し、新たに生じうる問題に対し、自ら情報収集に努め、個人として、市民として、さまざまな立場や観点から自らの考えをもって議論できるようにすることを達成目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：大学において現役で生物学の研究に従事している講師が担当】 生命の本質は2つある。その一つは、遺伝情報を自己複製することで後世に伝えていくこと、そしてもう一つは、代謝活動により個体の生命活動を維持することである。本授業では、まず生命の基本単位である細胞の構成要素、各器官の働き、遺伝について学び、さらに生命活動を、生殖方法、発生、機能分化などの観点からみることで、どのように個体が維持されているかを学ぶ。最後に、生物と環境の関わりや生命科学の諸問題について、最近の話題を取り上げながら、生命科学と社会の問題を考える。なお、開講順と開講テーマは変更される場合がある。		
授業計画	① 生命とは ② 生命の誕生と変遷 ③ 組織と細胞、構成要素 ④ 細胞の活動、組織と器官 ⑤ 細胞分裂と遺伝、染色体・DNA・遺伝子 ⑥ 様々な遺伝 ⑦ 発生、機能分化 ⑧ 生殖方法 ⑨ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用1 ⑩ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用2 ⑪ 科学史の中の生命科学 ⑫ 生命科学の最前線 細胞の初期化 ⑬ 生命科学の最前線 再生医療 ⑭ 生命科学の最前線 生殖医療と遺伝子診断 ⑮ 生命科学をめぐる諸問題 ⑯ 試験－記述式		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、新聞やテレビ・インターネットのニュースなどで最新の情報に触れるように努めること。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況20%、授業に対するコメントペーパー20%、定期試験60%		
履修条件	学修規定による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし、プリントを配布する		
参考書	なし		

科目名	生活と環境 Environmental Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が生活に関わるさまざまな環境問題を知り、その要因を理解して、対応や解決策を考え、自らの生活の中で、環境に良い行動ができるようになることを目的とする。教養教育科目の自然・環境の理解の分野で、「生活と環境」を学ぶことによって、現在の自然環境、人工環境、社会環境、情報環境の下で、学生自らの行動を見直し、環境に負荷をかけ過ぎない生活、高度に複雑化した環境を正しくとらえる力を身に付け、未来にむけて持続発展できる環境に良い行動に変容して行くことを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：授業計画②、③、④、⑥、⑧、⑩、⑫、⑭、⑯の回は、それぞれのテーマについて、現役または勤務経験のある講師が担当】 山や川などに育まれた「自然環境」、人間が作り出した「人工環境」、家族制度及び法律などの「社会環境」、さらに近年、変化が著しい「情報環境」など、私たちは、あらゆる「環境」の中で生活している。この授業では、これらが絡み合う複雑な現代社会を、健康で安全に生活していくため、身の回りにおける環境問題と影響を受ける心身に関する知識を習得し、理解を深める。講義は、毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式で行う。10回ある実務経験者の回は、最新の現状や現場ならではの体験をもとに授業を実施する。選択科目だが、どの授業も大学生として知っていてほしい知識ばかりのため、積極的に履修すること。なお、開講順と開講テーマは変更される場合がある。		
授業計画	① 生活と環境ガイダンス及び安全・安心なまちづくり【担当：生活デザイン学科 服部】 ② 学生生活とカウンセリング【担当：臨床心理士】 ③ 女性のからだと出産【担当：岐阜大学医学部附属病院 医師】 ④ 知っておきたい選挙制度【担当：岐阜市選挙管理委員会】 ⑤ 食生活と環境【担当：食物栄養学科 教員】 ⑥ 地球温暖化と私たちの暮らし【担当：岐阜市役所環境部】 ⑦ 情報過多時代の情報収集とその分析【担当：国際文化学科 教員】 ⑧ 薬物乱用防止【担当：岐阜県薬務水道課】 ⑨ インターネットと情報モラル【担当：情報セキュリティ分野の講師】 ⑩ 衣環境におけるSDGsの取組【担当：生活デザイン学科 教員】 ⑪ 生活の中のDV【担当：DV防止活動のNPO法人】 ⑫ 悪質商法などの被害に遭わないために【担当：岐阜県県民生活相談センター】 ⑬ 大学生の食生活について【担当：食物栄養学科 教員】 ⑭ 未来を紡ぐ、「男女共同参画社会」へ【担当：男女共同参画活動のNPO法人】 ⑮ 日常生活と防犯、ストーカー対策【担当：岐阜北警察署生活安全課】		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、新聞・本などで最新の現状を調査しておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度30%、学内教員のレポート40%、外部講師のレポート30%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	なし。		

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	食栄（1年前期）／英文・国文・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な計算問題を解けるようにする。また、私たちの日常生活はエネルギーを消費することで成り立っている。そのエネルギーに関係するものとして、紫外線や食品を取り上げるが、その性質について理解する。また、食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。</p>		
授業概要	<p>日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかかわりがある。化学が普段の暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。</p> <p>たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解ができるように配慮し、なるべく身近な事柄、たとえば、食品や生体に含まれる成分などを題材に取り上げ、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 元素と元素記号 ③ 物質の測定 ④ 紫外線(1) ⑤ 紫外線(2) ⑥ カロリー（エネルギー） ⑦ ダイエット① ⑧ ダイエット② ⑨ ダイエット③ ⑩ 身のまわりの酸と塩基 ⑪ アルコール① ⑫ アルコール② ⑬ 食品中の有機化合物 ⑭ 食品中の無機化合物 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。</p> <p>【復習】ノートに整理し、理解する。</p>		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし。		
教科書	『わかる化学』／著・松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし。		

科目名	日本社会の歩み Japanese History	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文（1年後期）／食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	森田 晃一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>歴史を学ぶことは、たんに過去の事実を知識として習得することではない。過去と現在との間には密接な関係が、ときには緊張感さえたよう関係が存在する。近世から現代への歴史をたどることで「日本社会の歩み」について認識を深め、現代社会をより「意識的」に生きる姿勢を養う。歴史知識の多寡を問うのではなく、それを毎日の生活に活かせる歴史学的方法を身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	<p>この授業では、近世から現代にいたる「日本社会の歩み」を、歴史学の考え方・平和社会・国際交流・自然環境・文化芸術の5つのテーマから、全15回分の話題を設定して学習していく。私たちが生きる現代日本に関心を持ち、そこに生起する諸問題を探求する態度を養うことが大切である。その方法の一つとして、問題を過去に遡って考察する（歴史学的方法）。講義の前週にプリントを配布する（予習しておくこと）。適宜、映像資料を使用して理解を深める。上記のように5つのテーマを扱うが、1つのテーマが終わるごとに、復習を兼ねて課題を出す。この課題は成績評価の資料として扱う。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 歴史学の考え方（1）過去と歴史はどうちがうか ② 歴史学の考え方（2）時代区分と現代社会のとらえ方 ③ 平和社会（1）近代の戦争 ④ 平和社会（2）戦国の時代相 ⑤ 平和社会（3）徳川の平和 ⑥ 国際交流（1）「鎖国」への道 ⑦ 国際交流（2）「四つの口」長崎貿易と対馬藩 ⑧ 国際交流（3）「四つの口」薩摩藩と松前藩、開国 ⑨ 自然環境（1）日本列島の気候、小氷河期の近世、そして飢饉 ⑩ 自然環境（2）近世の自然環境と循環型社会 ⑪ 自然環境（3）災害と人びと ⑫ 文化芸術（1）大道芸と見世物 ⑬ 文化芸術（2）落語と講談 ⑭ 文化芸術（3）茶の湯 ⑮ 文化芸術（4）浮世絵 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】事前に配布した講義資料を読んでおくこと。</p> <p>【復習】授業終了時に示す課題について、次回の授業までにレポートを作成すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度10%、提出物（課題）90%		
履修条件	なし。		
教科書	なし 講義資料を配付する。		
参考書	なし（必要に応じて、授業内で紹介する）。		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	吉田 琢哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>身近な対人関係の問題を主な題材として、学生が心理学的な考え方やものの見方を身につけることを目標とする。具体的には、学生が以下の事柄について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>(1) 心理学の成り立ち (2) 人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働き (3) 社会、教育および発達心理学の領域における人の心の捉え方</p>		
授業概要	<p>心理学は心の問題を中心的に扱う学問である。ただし、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心についての理解を深めることを目指す。具体的には、社会心理学・教育心理学・発達心理学の分野を中心に学ぶ。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション・心理学とは ② 心理学の研究方法 ③ 色彩の心理学的効果 ④ 他者を好きになる心 ⑤ 他者を見る心 ⑥ 他者と比べる心 ⑦ 人の発達 ⑧ 親密な人間関係 ⑨ コミュニケーションの技術 ⑩ ノンバーバル・コミュニケーション ⑪ やる気メカニズム ⑫ 記憶メカニズム ⑬ 学習メカニズム ⑭ 犯罪の心理（1）犯罪とは何か ⑮ 犯罪の心理（2）身近な人への暴力 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】事前に資料を精読してくること。 【復習】講義内容を復習しながら小レポートに取り組むこと。</p>		
評価方法	<p>受講態度20%、小レポート10%×5、最終レポート30%。小レポートは3回の未提出で不可とする。他の学生の学習動機づけを下げたり、迷惑を及ぼす行為は減点となる。</p>		
履修条件	<p>学修規定による。真摯な態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。</p>		
教科書	<p>なし。プリントを配布する。</p>		
参考書	<p>なし。</p>		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中島 美幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が「ジェンダー」について学び、以下の4点を獲得することを目的とする。</p> <p>①無意識の偏見に気づき、ジェンダーセンシティブな視点を持つことができる。 ②多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。 ③将来のライフデザインを、より明確に描くことができる。 ④生きる力を高め、社会に対し主体的に働きかけることができる。</p>		
授業概要	<p>多様な選択が可能になったといわれる現代であるが、「男は仕事/女は家事」「男は強く/女は優しく」など、社会は男女で異なる役割を期待し、また多くの人も、それを当たり前と思いつけている。このように、社会や文化が作り出した性差をジェンダーと言う。この授業では、ジェンダーを作り出し、再生産している社会や文化の構造を明らかにするとともに、どのようにしたらジェンダーの縛りから自由になれるかを考える。そのために、過去の女性の生活や活動を知るとともに、現代の女性をとりまく様々な問題を考察する。そして、差別が解消された社会を展望する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 多様性とエンパワメント ② 作られる「女らしさ」「男らしさ」 ③ 「男らしさ」からの解放 ④ 暴力の根絶 ⑤ 50年後の日本を見据えて ⑥ 男女をめぐる国際比較 ⑦ 男女ともに働きやすい社会に ⑧ 日本の現在～法律・制度・慣習 ⑨ 恋愛・結婚・家族とジェンダー ⑩ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ⑪ 母になる、父になる、ということ ⑫ 性別分業の起源と歴史①世界 ⑬ 性別分業の起源と歴史②日本 ⑭ 女性解放運動の歴史～フェミニズム ⑮ 平等な社会を求めて～世界と日本の今 		
予復習等	<p>【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、男女に関するテーマに関心を向けること。 【復習】授業後に、課題について小レポートを作成すること。</p>		
評価方法	<p>毎回の小レポート(80%)と、同じく毎回の小テスト(20%)で評価する。</p>		
履修条件	<p>なし</p>		
教科書	<p>なし。プリントを配布する。</p>		
参考書	<p>毎回、配布するレジュメで適宜紹介する。</p>		

科目名	スポーツ&エクササイズ Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英文・生デ（1年前期）／国文・食栄（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが、挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみ方は多様であることを認識する ・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する ・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する 		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリ分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリ毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験(1) ③ 学内スポーツ施設体験(2) ④ チームスポーツ（攻守分離型）(1) ⑤ チームスポーツ（攻守分離型）(2) ⑥ ニュースポーツ(1) ⑦ ニュースポーツ(2) ⑧ チームスポーツ（攻守混合型）(1) ⑨ チームスポーツ（攻守混合型）(2) ⑩ チームスポーツ（攻守混合型）(3) ⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）(1) ⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）(2) ⑬ レクリエーションスポーツ(1) ⑭ レクリエーションスポーツ(2) ⑮ まとめ ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国文・食栄（1年前期）／英文・生デ（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」と言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が身体の状態に与える影響を理解する ・運動には多様な楽しみ方があることを認識する ・自分に合う運動のタイプを認識する。 		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせられて実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験 ③ チームスポーツ（攻守分離型） ④ ニュースポーツ ⑤ チームスポーツ（攻守混合型） ⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型） ⑦ 講義「健康とは？運動しないとどうなる？」 ⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」 ⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」 ⑩ 体力づくり実践 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報処理（基礎） [英文] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ビジネス用アプリケーションソフトの基本的な操作方法を学び、文書作成や表計算、プレゼンテーション技法について演習を通じて習得する。また、ネット社会における情報セキュリティなどの脅威とその対策、情報モラルを理解することで、概念的な常識についても学習する。文書作成、表計算、グラフ作成、スライド作成、情報モラルを身につけることを目標とする。		
授業概要	講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に4学科合同で行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams, Word, Powerpointの基本操作について学ぶ。その後、タッチタイピング演習、ワープロソフト（Word）・表計算ソフト（Excel）・パワーポイント(PowerPoint)の操作を学ぶ。授業では、これらのソフトの操作方法を確認するだけでなく、課題・演習を通じて、実践的な知識・技術を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Wordの基本操作、タイピング、Teams・Zoom ② Powerpointの基本操作、Wi-Fi、情報セキュリティ、情報モラル ③ ガイダンス ④ ファイルとフォルダの操作 ⑤ Word(1) 基礎 ⑥ Word(2) 文書の作成 ⑦ Word(3) 応用 ⑧ Excel(1) 基礎 ⑨ Excel(2) 表 ⑩ Excel(3) グラフ ⑪ Excel(4) 統計関数 ⑫ Excel(5) 論理関数 ⑬ PowerPoint(1) 基礎 ⑭ PowerPoint(2) 演習 ⑮ まとめ ⑯ 		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル』／出版：noa出版		
参考書	なし。		

科目名	情報処理（基礎） [国文] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習・講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ビジネス用アプリケーションソフトの基本的な操作方法を学び、文書作成や表計算、プレゼンテーション技法について演習を通じて習得する。また、ネット社会における情報セキュリティなどの脅威とその対策、情報モラルを理解することで、概念的な常識についても学習する。文書作成、表計算、グラフ作成、スライド作成、情報モラルを身につけることを目標とする。		
授業概要	講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に4学科合同で行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams, Word, Powerpointの基本操作について学ぶ。その後、タッチタイピング演習、ワープロソフト（Word）・表計算ソフト（Excel）・パワーポイント(PowerPoint)の操作を学ぶ。授業では、これらのソフトの操作方法を確認するだけでなく、課題・演習を通じて、実践的な知識・技術を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Wordの基本操作、タイピング、Teams・Zoom ② Powerpointの基本操作、Wi-Fi、情報セキュリティ、情報モラル ③ ガイダンス ④ ファイルとフォルダの操作 ⑤ Word(1) 基礎 ⑥ Word(2) 文書の作成 ⑦ Word(3) 応用 ⑧ Excel(1) 基礎 ⑨ Excel(2) 表 ⑩ Excel(3) グラフ ⑪ Excel(4) 統計関数 ⑫ Excel(5) 論理関数 ⑬ PowerPoint(1) 基礎 ⑭ PowerPoint(2) 演習 ⑮ まとめ ⑯ 		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル』／出版：noa出版		
参考書	なし。		

科目名	情報処理（基礎） [食栄] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	船越 弥生	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生がコンピュータの基本的な操作を理解・習得すると共に、オフィスソフトウェア（ワード、エクセル、パワーポイント）の機能の理解および操作の習得を目的とする。以下の2点を到達目標とする。</p> <p>①学生がコンピュータを単独で操作する。 ②学生自身がインターネットを利用した情報収集によって、コンピュータに関連する疑問点等を独自に解決する。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：病院および事業所にて管理栄養士として業務に従事した際に、コンピューターを活用した経験あり】</p> <p>本講義では、ワープロソフト（ワード）、表計算ソフト（エクセル）、プレゼンテーションソフト（パワーポイント）について、基本的な操作および技能を習得する。基本的な操作については、複数回の講義によって学習する。基本的な技能については、演習課題を実施することで習得する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ワードの基本 ② 基本的な文章作成のテクニック ③ 見栄えする文章作成テクニック ④ 印刷する ⑤ エクセルの基本 ⑥ 文字入力と書式のテクニック ⑦ 数式と関数のテクニック ⑧ グラフ機能とデータベース機能のテクニック ⑨ パワーポイントの基本 ⑩ スライドの整形と素材の挿入 ⑪ 図表・グラフ・アニメーションの作成 ⑫ プレゼンテーションの実行 ⑬ 演習問題① ⑭ 演習問題② ⑮ 演習問題③ ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】教科書の内容を読んでおくこと。 【復習】講義内容を振り返り、学習した操作が実施可能か確認すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『日本語ワープロ検定試験問題集 2級・準2級編』、『情報処理技能検定試験 表計算 3・準4級編』、『プレゼンテーション作成検定試験 1・2級編』/著：日本情報処理検定協会		
参考書	なし。		

科目名	情報処理（基礎） [生デ] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学生生活、社会生活において必要となる、基本的なコンピュータ操作を学ぶこと目的とし、以下の4点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Teams, Zoom：遠隔授業や遠隔会議に対応できるだけの知識を習得すること ・Word：レポートやビジネス文章を作成できるようになること ・Excel：表計算の基礎的な知識・技術を習得すること ・PowerPoint：プレゼンテーション資料を作成できるようになること 		
授業概要	<p>ネット社会におけるセキュリティや情報モラルを理解し、また実際のパソコンの操作方法についてを、各種アプリケーションに触れながら学ぶ。具体的には、ビデオ会議ツール（Teams, Zoom）、ワープロソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）などを扱う。教科書で学ぶだけでなく、演習問題に取り組むことで、大学生生活および社会生活において必要となる基礎的な知識と技術を習得できるように構成している。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・セキュリティー・情報モラル ② 基本操作 ③ WORD：基本 ④ WORD：文章の作成 ⑤ WORD：表の作成 ⑥ Excel：基本 ⑦ Excel：関数(1) ⑧ Excel：関数(2) ⑨ Excel：グラフ ⑩ Excel：演習問題 ⑪ Excel：演習問題 ⑫ Excel：演習問題 ⑬ Power Point：基本 ⑭ Power Point：プレゼンテーション ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】前の授業で提示された課題に取り組む。 【復習】授業で扱った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度15%、課題85%（授業内に随時課題を課す）		
履修条件	なし		
教科書	『今すぐ使えるかんたん Word & Excel & PowerPoint [Office 2016 対応版]』 / 著：技術評論社編集部 / 出版：技術評論社		
参考書	授業内で適時紹介		

科目名	データサイエンス概論 [英文] Data Science	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科 (1年後期)	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代社会は、デジタル・トランスフォーメーションによる大転換が起きている。その転換の原動力として、人工知能 (AI) やデータサイエンスがある。これらを牽引する分析技術として「機械学習」が挙げられるが、統計学を利用するケースが多いため「統計的機械学習」と呼ばれることもある。そこで、本講義では、データサイエンスの概略とデータサイエンスを学ぶ上で必要な統計に関する知識を学び、これらに関する基礎知識を習得することを目的とする。		
授業概要	本講義では、データサイエンスの概略、データサイエンスを学ぶ上で欠かせない統計学の基礎については講義を、表計算ソフト (Excel) を用いた統計処理の基本を演習によって習得する。表計算ソフトを用いた学習では、統計の基礎 (正規分布、ヒストグラムなど) を学んだうえで、実際に実験を行い、データ収集をし、統計処理の基本について習得する。また、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を用いた発表については、データサイエンスの活用例や研究についてグループで調査をし、その内容や考察についてスライドの作成を行い、発表する。		
授業計画	① ガイダンス、データサイエンス (1) なぜデータサイエンスなのか ② データサイエンス (2) データ分析の重要性 ③ データサイエンス (3) 最新の研究例 ④ データサイエンス (4) 統計の重要性・必要性 ⑤ データサイエンス (5) 統計処理の基礎 ⑥ 統計処理 (1) 実験 ⑦ 統計処理 (2) 実験データの入力と統計処理 ⑧ 統計処理 (3) 各種統計 ⑨ 統計処理 (4) Excel関数 (統計) ⑩ 統計処理 (5) まとめ ⑪ プレゼン (1) 課題設定 ⑫ プレゼン (2) 文献検索 ⑬ プレゼン (3) スライド作成 ⑭ プレゼン (4) 発表1 ⑮ プレゼン (5) 発表2 ⑯		
予復習等	【予習】次週の内容について自主的に調べておく。 【復習】学んだ内容について再度プリントを読み、授業内容の要点を再確認する。		
評価方法	平常点 15%、授業内試験および課題 85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理 (応用) [生デ] Practical Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	講義
担当者	坂本 牧葉	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、情報を扱い、資料を作成する上でのソフトウェアの操作方法や留意点を学ぶ。MS Wordでは論文などを想定した書式編集、Excelでは応用可能な統計解析やマクロの基礎を身につける。PowerPointでは発表する内容に応じたスライドデザインを自身で制作する方法や、効果的なプレゼンテーションの方法を実践的に身につける。後半はAdobe Illustrator、Photoshopの操作を学ぶ。課題制作などの取り組みによって、各専修で応用可能なグラフィックデザインの基礎技術を習得する。		
授業概要	MS Wordはサンプルデータを編集することによって、アウトライン作成やページ番号の挿入などを学習する。Excelではサンプルデータを用いてピボットテーブルの作成や単回帰分析などを学ぶ。PowerPointの学習では、テーマに応じてスライドマスターを自身で編集・デザインし、実際に発表を行う。Adobe Illustratorでは演習を通してベクターデータの描画・編集などの基本操作を身につけ、Photoshopではラスタ画像の描画・編集方法を学ぶ。		
授業計画	① MS Word 文書作成の応用技術 ② MS Excel (1) データの集計と分析 ③ MS Excel (2) データの集計と分析 ④ MS Excel (3) マクロ ⑤ MS PowerPoint (1) スライド作成課題 ⑥ MS PowerPoint (2) スライド作成課題 ⑦ MS PowerPoint (3) 発表 ⑧ Adobe Illustrator (1) 基本操作 ⑨ Adobe Illustrator (2) 基本操作 ⑩ Adobe Illustrator (3) 基本操作 ⑪ Adobe Illustrator (4) 基本操作 ⑫ Adobe Photoshop (1) 基本操作 ⑬ Adobe Photoshop (2) 基本操作 ⑭ Adobe Photoshop (3) 基本操作 ⑮ Adobe Photoshop (4) 基本操作 ⑯ Illustrator、Photoshopを用いた課題制作		
予復習等	【予習】参考書の精読や、授業内で扱う技術に関する調査など 【復習】配布資料の読み直し、配布データを使った復習など		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、課題提出 80%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	実教出版 飯田慈子、米沢雄介、岡本久仁子著「30時間アカデミック 情報活用 Excel2016/2013」]		

科目名	英語Ⅰ [国文] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションにおける様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 : On the Plane ③ Unit 2 : At the Currency Exchange ④ Unit 3 : At the Hotel 1 ⑤ Unit 4 : At the Hotel 2 ⑥ Unit 5 : On the Train / Bus ⑦ Unit 6 : Sightseeing 1 ⑧ Review 1 今までのまとめ ⑨ Unit 7 : Shopping 1 ⑩ Unit 8 : Shopping 2 ⑪ Unit 9 : At the Post Office ⑫ Unit 10 : Sightseeing 2 ⑬ Unit 11 : At the Restaurant ⑭ Unit 12 : At the Hospital / Pharmacy ⑮ Review 2 今までのまとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所の内容を把握し、問題を解いておくこと。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど）50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	My First Trip / 著：工藤多恵 / 出版：センゲージラーニング		
参考書	授業内に適宜指示する。		

科目名	英語Ⅰ [食栄 (Aクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語のコミュニケーション能力の伸長を目的とする。到達目標は以下である。1) 英語で自己紹介することができる、2) 基本的な英語であれば、ナチュラルスピードの会話を理解することができる、3) 道を聞く、買い物をする、ホテルや空港のチェックイン・チェックアウトを行うなど、海外旅行に必要な基本的な英語を聞き取ったり、話したりすることができる。		
授業概要	CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、内容理解、ディクテーション、音読、ロールプレイ、シャドーイングなどのさまざまな活動をおしてリスニング力やスピーキング力を高め、実践的なコミュニケーション能力を養う。使用するビデオ教材は、海外旅行や海外留学・ホームステイを扱った内容なので、海外に短期・長期滞在する上で必須の実用的な英語を学ぶことができる。英語で自己紹介ができるようにする。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ① ガイダンス・スピーチ (Self-introduction) ② Unit 1: Getting information ③ Unit 2: Checking in at a hotel ④ Unit 3: Asking for directions ⑤ Unit 4: Renting a car ⑥ Unit 5: Ordering a meal ⑦ Unit 6: Shopping for clothes ⑧ 中間試験 ⑨ Unit 7: Asking for a favor ⑩ Unit 8: Meeting a friend ⑪ Unit 9: Checking out of a hotel ⑫ Unit 10: Expressing preference ⑬ Unit 11: Home stay ⑭ Unit 12: Offering to help ⑮ Review ⑯ 期末試験 		
予復習等	授業内で配布された音声教材を使用し、ディクテーションやシャドーイング、音読練習。期末試験なに加えて、中間試験を行う。		
評価方法	出席状況・授業態度 40%、中間試験30%、期末試験30%		
履修条件	学修規程による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Viva! San Francisco』 Macmillan Languagehouse		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ [食栄 (Bクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome ③ Unit 2 Where Do You Live? ④ Unit 3 Is This the Elevator? ⑤ Unit 4 Is This the Princess? ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? ⑬ Unit 12 By All Means, Rome ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』 / 著: 渡辺幸俊他 / 出版: 南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅰ [生デ (Aクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語リーディング教材を使い、その内容に基づいて英語を使った様々な活動を行います。以下の3つを各回における目標とし、総合的な英語力の向上を目的とします。 (1) 学んだ語彙、表現、文を発することができるようになること (2) 読んだ英文内容を簡単な英語で要約できるようになること (3) 読んだ英文のテーマについて自分の意見に基づいた反応をできるようになること		
授業概要	英語リーディング教材を用います。1回の授業でUnitを1つずつ進めていきます。最初に、様々なテーマについて書かれた基礎的なレベルの英文内容把握を行います。その後、学んだ語彙、表現、文を使って、英語を用いた様々な活動(内容把握、語彙の確認、要約、簡単な感想をのべるなど)を行います。これらの活動を通して語彙力、表現力を高め、総合的な英語力の向上を図ります。		
授業計画	① ガイダンス・英語学習について ② Unit 1 Uniquely Japanese Hospitality ③ Unit 2 "Time Machine" With a Flag on Top ④ Unit 3 Start and Finish Work Earlier ⑤ Unit 4 Humanoids in the Aging Society ⑥ Unit 5 No Longer a Man's World ⑦ Unit 6 What will the 2020 Games Give Us? ⑧ Unit 7 Your Name Is Not on the List ⑨ Unit 8 When Quakes Hit, Eruptions May Follow ⑩ Unit 9 As Young as 70 Years Old ⑪ Unit 10 The Music Industry Needs to Change ⑫ Unit 11 Don't Kill Lions to Prove Manhood ⑬ Unit 12 How About a Nose Job in Malaysia ⑭ Unit 13 Bats Carry Ebola but Don't Get it ⑮ Unit 14 Animals' "Human" Rights!? ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】各Unitの英文を読み、事前にすべてのタスクをやってくること 【復習】Summarizing Practice にある英文を声に出して何度も読み、スラスラ読めるようにしておくこと		
評価方法	授業姿勢(20%)、復習確認課題(20%)、期末試験(60%)		
履修条件	なし		
教科書	『Reading in Action Basic』 / 著: 静哲人 / 出版: 金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ [生デ(Bクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科(1年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションにおける様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的な英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 : On the Plane ③ Unit 2 : At the Currency Exchange ④ Unit 3 : At the Hotel 1 ⑤ Unit 4 : At the Hotel 2 ⑥ Unit 5 : On the Train / Bus ⑦ Unit 6 : Sightseeing 1 ⑧ Review 1 今までのまとめ ⑨ Unit 7 : Shopping 1 ⑩ Unit 8 : Shopping 2 ⑪ Unit 9 : At the Post Office ⑫ Unit 10 : Sightseeing 2 ⑬ Unit 11 : At the Restaurant ⑭ Unit 12 : At the Hospital / Pharmacy ⑮ Review 2 今までのまとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点(出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど)50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	My First Trip / 著:工藤多恵 / 出版:センゲージラーニング		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ [国文(Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科(1年後期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションにおける様々な場面において、頻出する表現を、確実に身に付けることである。さらにより高度な英文読解力および英語聴解力を養成する。たくさんの練習問題を加えることで、文法事項も再確認し、語彙力の増強を目指していく。大学での学びに必要な総合的な英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れていく。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 : Cllege Life ③ Unit 2 : Mobile Phones ④ Unit 3 : Movies ⑤ Unit 4 : Dating ⑥ Unit 5 : International Food ⑦ Unit 6 : World Englishes ⑧ Unit 7 : Weekends/Vacations ⑨ Unit 8 : Music/Songs ⑩ Unit 9 : Sports ⑪ Unit 10 : Shopping ⑫ Unit 11 : Traveling/Study Overseas ⑬ Unit 12 : Festivals/Parties ⑭ Unit 13 : Part-time/Future Jobs ⑮ Unit 14 : Experiences ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の問題を解いておくこと 【復習】授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること		
評価方法	平常点(出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど)50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『Global Activator』/著:塩澤正/出版:金星堂		
参考書	英語を持参すること。その他は適宜指示する。		

科目名	英語Ⅱ [国文 (Bクラス)] English II	単位数	1
		必修区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションにおける様々な場面において、頻出する表現を、確実に身に付けることである。さらにより高度な英文読解力および英語聴解力を養成する。たくさんの練習問題を加えることで、文法事項も再確認し、語彙力の増強を目指していく。大学での学びに必要な総合的な英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れていく。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 : Cllege Life ③ Unit 2 : Mobile Phones ④ Unit 3 : Movies ⑤ Unit 4 : Dating ⑥ Unit 5 : International Food ⑦ Unit 6 : World Englishes ⑧ Unit 7 : Weekends/Vacations ⑨ Unit 8 : Music/Songs ⑩ Unit 9 : Sports ⑪ Unit 10 : Shopping ⑫ Unit 11 : Traveling/Study Overseas ⑬ Unit 12 : Festivals/Parties ⑭ Unit 13 : Part-time/Future Jobs ⑮ Unit 14 : Experiences ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の問題を解いておくこと 【復習】授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど) 50%、定期試験 50%。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『Global Activator』/著:塩澤正/出版:金星堂		
参考書	英語を持参すること。その他は適宜指示する。		

科目名	英語Ⅱ [食栄 (Aクラス)] English II	単位数	1
		必修区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、所属する学科の専門教育に関連した英文に取り組むことを通して、より高度な英文読解力および英文聴解力を養成することである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をもち、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、リスニング問題に取り組むことで聴解力を磨き、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。その後、テーマに即した英文エッセイの朗読を聞く。リーディング演習では、英語の構造および重要な箇所、難解な箇所を理解し、文脈に合った正しい解釈ができるような読解力を身につける。内容把握に関する練習問題に取り組む。重要な語句について学習し、専門的な語彙力をも強化する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Introduction : 授業説明、Unit 1 : Energy-Providing Nutrients ② Unit 2 : Nutrition Science: A Brief History ③ Unit 3 : Staple Foods ④ Unit 4 : The Cultural Heritage of Food ⑤ Unit 5 : The Art of the Bento Box ⑥ Unit 6 : Kyushoku: The Japanese School Lunch ⑦ Unit 7 : Kodomo Shokudo ⑧ Unit 8 : Can Food be super ? ⑨ Unit 9 : Halal Food ⑩ Unit 10 : How We Taste ⑪ Unit 11 : Airline Food ⑫ Unit 12 : Sugar: What You Need to Know ⑬ Unit 13 : Sugar Tax ⑭ Unit 14 : Antioxidants ⑮ Unit 15 : Genetically Modified Food ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 50%、定期試験 50%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	『A Matter of Taste <Intro>』/著:津田晶子/出版:南雲堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ [食栄 (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	英語Ⅱ [生デ (Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、日常で出会う様々な場面を想定した実用的な英語コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。①会話で相手の意図や要求が理解できること、②場面に応じた英語表現が使えること、③重要な文法事項を理解し、会話に反映できる応用力を身につけることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>本授業では、短期留学を想定した教材を使用し、留学先のニューヨークで出会う様々な日常場面が必要となる、実用的な英語コミュニケーション能力を身につける。各場面の映像を視聴し、会話を聞き取り相手の意図や要求を把握する。会話に使われている重要な英語表現とその類似表現を学び、会話練習を行う。文法事項の解説を理解し、練習問題に取り組むことで応用力を養う。さらに、各ユニットの内容に関連した短いエッセイを読み、背景の文化や地域の事情を理解する。こうした活動から、総合的に英語力の向上を目指す。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1, Unit 2 ③ Unit 3 ④ Unit 4 ⑤ Unit 5 ⑥ Unit 6 ⑦ Unit 7 ⑧ Review ⑨ Unit 8 ⑩ Unit 9 ⑪ Unit 10 ⑫ Unit 11 ⑬ Unit 12 ⑭ Unit 13 ⑮ Unit 14 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの問題を解いておく。 【復習】 付属のオンライン配信を使って音声練習する。単語リストを作る。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、復習テスト40%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	『Hello New York!』／著：土屋武久／出版：金星堂		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [生デ(Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	英語Ⅲ [国文] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常の英語表現を映像を使って学習することにより、様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 : A Burger for a Fine Dining Experience ③ Unit 2 : Hold me ? ④ Unit 3 : Spies are Everywhere ⑤ Unit 4 : Making Peace through Music ⑥ Unit 5 : Glaciers Come, Glaciers Go ⑦ Unit 6 : Picking Up Language in the Womb ⑧ Unit 7 : The End of Space Travel ⑨ Unit 8 : A Talent Blossoms ⑩ Unit 9 : Robots for Everyday Use ⑪ Unit 10 : Video Games as a Career ⑫ Unit 11 : How the Internet Began ⑬ Unit 12 : Social Networking and Productivity ⑭ Unit 13 : The Large Hadron Collider ⑮ Unit 14 : All the World's Books Online ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の問題を解いておくこと 【復習】授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど）50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『VOA News Clip Collection』／著：安浪誠祐／出版：成美堂		
参考書	授業内に適宜指示する。		

科目名	英語Ⅲ [食栄・生デ] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	食栄・生デ (2年前期)	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The aim of this class is for students to learn English that is useful and necessary for a variety of situations when travelling and studying overseas. By increasing their knowledge of vocabulary, students increase their ability to communicate in a variety of situations. Students will also learn and practice sentence-length expressions which will help them speak more fluently and naturally.		
授業概要	Emphasis will be put on increasing students' English vocabulary through in-class activities and conversation. There will be a vocabulary quiz at the end of each unit. Other classroom activities include listening and reading practice, and dialogue practice in pairs. Because this is mainly a conversation course, students who take this course need to be interested in using English for spoken communication.		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Course introduction / Unit 1: Airport check-in ② Unit 1: Airline baggage rules / Vocabulary review ③ Unit 1 Vocabulary quiz / Unit 2: Jet lag ④ Unit 2: Time zones / Vocabulary review ⑤ Unit 2 Vocabulary quiz / Unit 3: Homestays ⑥ Unit 3: Host family rules / Vocabulary review ⑦ Unit 3 Vocabulary quiz / Unit 4: Culture shock ⑧ Unit 4: Making adjustments / Vocabulary review ⑨ Unit 4 Vocabulary quiz / Unit 5: Dormitory life ⑩ Unit 5: Suggestions and requests / Vocabulary review ⑪ Unit 5 Vocabulary quiz / Unit 6: Making friends ⑫ Unit 6: Activities overseas / Vocabulary review ⑬ Unit 6 Vocabulary quiz / Unit 9: Ordering food ⑭ Unit 9: Restaurant manners / Vocabulary review ⑮ Unit 9 Vocabulary quiz / Review ⑯ Exam 		
予復習等	<p>【予習】 Study the textbook before coming to class each week.</p> <p>【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.</p>		
評価方法	出席状況 30%、少テスト 40%、定期試験 30%		
履修条件	Be interested in speaking English.		
教科書	Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study. Simon Cookson & Chihiro Tajima, Cengage. 2016		
参考書			

科目名	英語Ⅳ [国文・食栄・生デ] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国文・食栄・生デ (2年後期)	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	フランス語Ⅰ French I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	フランス語の発音と文字の読み方を身につけ、辞書を使って簡単な文章が読め、やさしい会話ができることを目指します。また、フランスの文化についての理解も深めます。中学、高校と最初の外国語である英語での学習経験を思い出さなくとも、母国語である日本語においても、言葉を明確に使いこなすことは相当の時間を要します。言葉の仕組みである文法は「時間節約のカギ」とみなし、第二の外国語フランス語に取り組んで欲しいと思います。		
授業概要	ゼロから学習をスタートする今期は、アルファベットの確認とその綴りと読みの関係を重点的に学びます。付属の音声教材を聞いたあと、この関係を意識して音読練習をします。英語でも重要な2大動詞を学びますが、英語より複雑なフランス語の動詞の現在形も確認します。文法が理解できたかどうか、テキストを訳してもらったり、練習問題は履修者全員に随時板書してもらいます。言語と切り離せない文化の面では、フランス人なら誰もが知っている歌や、学習した表現などを確認できる映像（映画のシーン）なども紹介する予定です。「初めてなのに」でも、「初めて」の連続でしかない毎回の授業は一定のリズムで進むので、復習・予習は不可欠であり、毎回の出席の前提であると考えて下さい。		
授業計画	① 第0課 アルファベ、綴り字の読み方 ② 第0課 挨拶表現 ③ 第1課 名詞の性数、主語人称代名詞 ④ 第1課 動詞 êtreの直説法現在形 ⑤ 第1課 否定形、練習問題 ⑥ 第2課 動詞-er 直説法現在形 ⑦ 第2課 冠詞 ⑧ 第2課 形容詞 ⑨ 第3課 動詞 avoir の直説法現在形 ⑩ 第3課 否定のde、疑問文、疑問形容詞 ⑪ 第3課 代名詞の強勢形、練習問題 ⑫ 第4課 所有形容詞 ⑬ 第4課 不規則動詞 aller, venir, vouloir ⑭ 第4課 国名に付く前置詞、練習問題 ⑮ フランス語Ⅰのまとめ、フランスの歌(童謡など) ⑯ 試験		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件			
教科書	「ヴァージィ！」 田辺康子・西部由里子 駿河台出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	フランス語Ⅱ French II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語と同じアルファベットであるからこそ、フランス語の綴り字の読み方は英語に慣れている学習者には最後まで苦手意識のもとですが、その規則性は楽譜のように明確です。多くの学生には最後の学習機会なので、将来の自律学習のためにも一人でフランス語読みができる、また英語と同様の基本文法項目にも順次目を通すことを目標とします。自分が経験したことや起こった出来事を伝えるための第一の過去形も学習したいと考えます。状況表現では、この言語独特のリズム・イントネーションの習得にも心がけます。		
授業概要	週1回90分、1年間30回の学習のゴールとして今現在のメッセージを伝える現在形を極めることを目指します。過去形、未来形はフランス語Ⅲでの学習となりますが、今現在に隣接する近い未来、近い過去は動詞の現在形で表現でき、このような初級文法も確認します。文化的な点では、前期と同様よく知られている歌や、季節にまつわる詩や映像を通して、より理解を深めたいと考えます。また、よい環境で録音された音声教材は実際の交流場面での発話とは違うので、身近な映画といった教材を利用し、その発話のスピードや不明瞭さにも慣れる機会をもちたいと考えます。		
授業計画	① 仏語Ⅰの復習 ② 第5課 部分冠詞、指示形容詞 ③ 第5課 近い未来・近い過去 ④ 第5課 疑問代名詞、練習問題 ⑤ 第6課 疑問副詞、命令形 ⑥ 第6課 前置詞 a / le +定冠詞の縮約 ⑦ 第6課 -ir 動詞の直説法現在形、練習問題 ⑧ 第7課 形容詞 ⑨ 第7課 数量表現、練習問題 ⑩ 第8課 目的補語人称代名詞 ⑪ 第8課 非人称構文、練習問題 ⑫ 第9課 代名動詞 ⑬ 第9課 練習問題 ⑭ フランス語Ⅱのまとめ、文法問題 ⑮ フランス語ⅠⅡ総復習、文化トピック（歳時など） ⑯ 試験		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件			
教科書	「ヴァージィ！」 田辺康子・西部由里子 駿河台出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	フランス語Ⅲ French III	単位数	1
	必選区分	選択	
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	フランス語およびフランス文化についての理解を深めつつ、「話す力」「書く力」という側面を強化したいと思います。1年目に基本的な文法事項を習得し「読む力」「聞く力」を身につけている学習者の総合的な語学力向上を目指します。2年目は学習者・教員ともに余裕のある演習の授業空間が得られるので、1年で取り組めなかった過去や、自分の予定や夢を伝えるのに使う未来といった時制をとおして、より豊かなコミュニケーション力につなげたいと考えます。		
授業概要	フランス語ⅡⅡのテキストを引き続き使用し終了します。1年目と同様、テキストの会話をしっかり聞いたあと、綴りと発音の関係を意識しながら繰り返します。文法を理解したら板書してもらって練習問題で再確認します。1年目はさまざまな（活用）動詞の現在の時制にとどまっていますが、フランス語学習で最初の過去形である複合過去のほかに、過去の状況、習慣を表す半過去、また想定する将来のことを表す未来形も学習します。英語学習でと同様な発想で理解できる、関係代名詞、比較級などにも目を通します。文化面では、日本でも愛されている歌や、フランス人の特徴などが垣間見られる映画のシーンなどを紹介しします。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① フランス語Ⅱの復習 ② 第9課 過去分詞、受動態 ③ 第9課 動詞 vouloir, pouvoir の現在形 ④ 第9課 複合過去(助動詞 avoir, être) ⑤ 第9課 練習問題 ⑥ 第10課 比較級、最上級 ⑦ 第10課 代名動詞 ⑧ 第10課 代名動詞の複合過去、練習問題 ⑨ 第11課 半過去 ⑩ 第11課 関係代名詞、練習問題 ⑪ 第12課 単純未来形 ⑫ 第12課 ジェロンディフ ⑬ 第12課 強調構文、練習問題 ⑭ 視聴覚教材（シャンソン、文化トピックなど） ⑮ フランス語Ⅲのまとめ 複合時制（大過去、前未来） ⑯ 試験 		
予復習等	毎回全員参加の演習となるので、前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	「フランス語Ⅰ、Ⅱ」の単位を修得していること。		
教科書	「はじめてのバリー新・改訂版―」 大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚著 朝日出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	フランス語Ⅳ French IV	単位数	1
	必選区分	選択	
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	フランス語文法学習を接続法まで終えることで、辞書を使いフランス語の文書から必要な情報の取捨選択や収集できるようになることを目指します。またフランス語Ⅳまで達して漸く、その響きの心地よさゆえ気づかなかったこの言語の論理的な側面も実感することになります。「欧米文化」に括られない「フランス文化」の特質、ひいては私たちの文化的視点をも確認します。この言語学習をきっかけとした多様性への気づきが、社会人としての視野をより広げまた生涯学習への動機となるものと考えます。		
授業概要	週1回の2年間の学習でフランス語の体系を見てきましたが、その締めくくりとしてテキストにない複合時制（大過去から接続法過去）といった文法項目をプリント教材などで確認し、フランス語文法学習を一通り終えます。この点を理解できると中級レベルの「一現在」「一過去」という文法表現に不安や抵抗がなくなると考えます。この成果が学習者の将来での自律学習に繋がるものとなるはずで、時間の許す限り、プリント教材などでフランス語文化圏における生活者のための実用的なフランス語に触れ、この言語の背景であるフランス文化やその風土への理解を深めます。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① フランス語Ⅲの復習 ② 文法補遺 複合時制(直説法大過去) ③ 文法補遺 複合時制(直説法前未来) ④ 文法補遺 条件法現在 ⑤ 文法補遺 条件法過去 ⑥ 文法補遺 接続法現在 ⑦ 文法補遺 接続法過去 ⑧ プリント教材（聞き取り） ⑨ プリント教材（聞き取り） ⑩ プリント教材（検定など） ⑪ プリント教材（新聞、ネットなど） ⑫ プリント教材（バンドデシネ） ⑬ 視聴覚教材（シャンソンなど） ⑭ 視聴覚教材（文化トピックなど） ⑮ フランス語Ⅳのまとめ 質疑応答 ⑯ 試験 		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	「フランス語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の単位を修得していること。		
教科書	「はじめてのバリー新・改訂版―」 大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚著 朝日出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	教養演習 [英文] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	英語英文学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習では、英語英文学科で学ぶ学問分野についての基本的な知識を得ることを目的とする。本演習を通じて、英語学、英語教育学、英米文学などの学問分野が何を対象にして、どんなことを明らかにしていくものなのかを理解し、自らの専門分野を考える契機とする。各専門分野についての入門講義を通じて、研究の方法や論文作成の作法など、大学で学ぶための基礎教養を身につけていく。また、学外研修として岐阜市内の史跡、文化施設、町並み等の見学を実施し、2年間通して学ぶ地である岐阜市について知ること目標とする。</p>		
授業概要	<p>各授業では担当教員がそれぞれの専門分野、英語学習法についての入門講義を行う。受講者はそれぞれの教員の講義を受け、提示された課題を授業内外で行うことが求められる。また、6月上旬に実施予定の岐阜市内見学についての計画、オリエンテーションを数回行う。これらの学びと活動を通じて、物事を調べる力、記録する力、伝える力など、短期大学の学生としての学びに必要な事柄を身につけていく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 言語の科学 (1) ② 言語の科学 (2) ③ 図書館ガイダンス ④ 英語の語法と文法 ⑤ 辞書と文法書の活用法 ⑥ Independent English Study ⑦ 学外研修 (岐阜市内見学) ⑧ Group Presentations ⑨ 達人の英語学習法(1) ⑩ 達人の英語学習法(2) ⑪ アメリカ文学研究入門(1) ⑫ アメリカ文学研究入門(2) ⑬ イギリス文学研究入門(1) ⑭ イギリス文学研究入門(2) ⑮ 学外研修レポートの作成 ⑯ 学外研修レポートの作成・提出 		
予復習等	<p>【予習】各回の授業で指示する。 【復習】各回の授業で指示する。</p>		
評価方法	各担当教員(6名)の評価(20%)の合計点(100点満点)によって成績をつける。		
履修条件			
教科書	各教員が資料を配布する。		
参考書	各回の授業で随時提示する。		

科目名	教養演習 [国文] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年全期)	科目区分	演習
担当者	国際文化学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>10人程度のゼミ形式で、文章言語表現・レポート作成・文献検索・口頭発表の仕方など、学習活動に不可欠な基本訓練を行う。更に、今後の就職活動の準備の仕方などについても、指導を行う。到達目標としては、大学で学ぶ上での基本的な教養と心構えを身に付けることである。</p>		
授業概要	<p>ゼミ形式で、大学で学習する上での基本的な教養(文章の読解力・要約力、文献検索の仕方、レポート・論文の作成方法、就職活動の仕方等)を学ぶ。各担当教員は、授業だけでなく、受け持つ学生のアドバイザーとなり、2年間を通して、勉学、生活、就職上の相談にのる。また、各担当教員が設定した各オフィスアワーには、優先的に相談に応じる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 大学及び大学生とは(1) ② 大学及び大学生とは(2) ③ 本学の施設を有効利用する ④ 文章の読解力、要約力を磨く(1) ⑤ 文章の読解力、要約力を磨く(2) ⑥ 文献検索、情報検索の方法を身につける(1) ⑦ 文献検索、情報検索の方法を身につける(2) ⑧ レポート・論文を作成する(1) ⑨ レポート・論文を作成する(2) ⑩ レポート・論文を作成する(3) ⑪ レポート・論文を発表する(1) ⑫ レポート・論文を発表する(2) ⑬ 情報の伝達力を磨く(1) ⑭ 情報の伝達力を磨く(2) ⑮ 職業人に向けての心構え(1) ⑯ 職業人に向けての心構え(2) 		
予復習等	<p>【予習】予習の内容については各担当教員が授業の中で提示する。 【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし		
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する。		
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する。		

科目名	教養演習 [食栄] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	食物栄養学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように役立ちたいか?」、「そのために必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢へと変換する。</p>		
授業概要	<p>大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集(文献・資料の検索方法)、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などを10名程度のグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。食物栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をとする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 学生の学習技術：ノートの取り方、講義の受け方 ③ 学生の学習技術：予習・復習、図書館の使い方 ④ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1) ⑤ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2) ⑥ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3) ⑦ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(4) ⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(5) ⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(6) ⑩ 演習Ⅰ：口頭発表 ⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1) ⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2) ⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3) ⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4) ⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5) ⑯ レポート・論文提出 		
予復習等	<p>【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、理解する。</p>		
評価方法	出席状況25%、授業態度25%、発表25%、レポート・論文など提出物25%		
履修条件	なし。		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』／著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	各担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。		

科目名	教養演習 [生デ] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標 ② 講義ノートをとる力の習得 ③ テキストを読む力の習得 ④ 文献を調べる力の習得 ⑤ レポートを書く力の習得 ⑥ レポートをまとめる力の習得 ⑦ 成果を伝える力の習得 ⑧ 学外研修 ⑨ 学外研修 ⑩ 学外研修 ⑪ 学外研修 ⑫ 特別講義 (1回目) ⑬ 特別講義 (2回目) ⑭ 卒業研究中間発表会 ⑮ 卒業研究中間発表会 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】学んだことを他の講義等で実行すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加(レポート提出)、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第5版」		
参考書	なし		